

## 第 57 回政策研究大学院大学経営協議会議事要旨

- 日 時 : 平成 28 年 1 月 20 日 (水) 15:30~16:30
- 場 所 : 政策研究大学院大学 会議室 3C
- 出席者 :
  - 〔学外委員〕  
石田委員、老川委員、小野委員、嶋津委員、林委員、早房委員
  - 〔学内委員〕  
白石学長、大山理事、上山副学長、園部副学長、増山副学長、横道副学長、今野学長特別補佐、中野大学運営局長
- 欠席者 :
  - 〔学外委員〕  
奥委員、加藤委員、工藤委員、中邨委員

### I. 審議事項

#### 1. 目的積立金について

資料に基づき、中野大学運営局長から、平成 26 年度決算剰余金の繰越申請が満額認められ、全額を目的積立金として積み増しすること、及び目的積立金の支出について、4 百万円の追加取崩及びキャンパス高度化計画の項目追加を行う旨説明があり、これを了承した。

◆学外委員からの主な意見は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

○：平成 27 年度決算剰余金の繰越協議が認められた場合、照明の LED 化、省電力型 PC への更新等の省エネルギー対策は平成 28 年度中に実施するのか。

△：繰越が認められると第 2 期中期目標期間の目的積立金になるが、さらにそれを第 3 期中期目標期間に繰り越す協議を行い、認められた場合第 3 期中に実施することになる。

#### 2. 第 3 期中期目標原案・中期計画案について

資料に基づき、中野大学運営局長から、第 3 期中期目標原案・中期計画案について、昨年 6 月末に文部科学省に提出した素案からの主な変更点の説明があり、これを了承した。

◆学外委員からの主な意見は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

○：意欲的な KPI を立てていたのに、予算がつかずに計画を見直さざるをえないのは非常に残念だ。

#### 3. その他

特になし。

### II. 報告事項

#### 1. 平成 28 年度運営費交付金内示の概要について

資料に基づき、中野大学運営局長から、平成 28 年度国立大学法人運営費交付金予算(案)の概要について説明があった。また、本学の平成 28 年度運営交付金の内示額は、対前年度 10.0%増の 2,141 百万円であり、内訳としては、基幹運営費交付金が対前年度 9.6%増の 1,886 百万円となっていること、基幹運営費交付金について、今回から新たに設定された機能強化促進係数が本学は△1.4%となったこと、機能強化経費に、従来の改

革補助金分も盛り込まれ、全体で 318 百万円となったこと、及び各戦略ごとの内示額等の報告があった。

◆学外委員からの主な意見は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

○：今回の運営費交付金の概算要求からの査定について方針のようなものは示されているのか。

△：具体的なものは来ていないが、有識者会議で審査したとは聞いている。機能強化経費のプロジェクト型については、本学では全体的に 7 割程度減額されている。

○：新しいことはせずに、現状の組織を維持して欲しいというような印象を受ける予算配分だ。本来、総額だけを決めて、大学の自由にさせた上で評価をするというような仕組みにすべきだ。

○：政策研究院の予算については、GRIPS 本体に影響しているか。

△：ミシン目をつけているので、GRIPS 本体の予算には響かないようになっている。

## 2. グローバルリーダー育成センターの活動状況について

資料に基づき、横道副学長から、グローバルリーダー育成センターの活動状況について報告があった。

◆学外委員からの主な意見は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

○：研修内容と受託金額が合っていないように見受けられるが、この金額で対応できるのか。

△：SPRI プログラムは全て JICA からのお金で実施している。その他の受託研修事業は各国の政府が払っている。問題は単価が上がらないという点である。

○：持ち出しになっているということか。

△：持ち出しにはなっていないが、アメリカの大学で提供している研修プログラムのような単価には達していない。本学の研修は 1 人当たり約 12 万円程度の収入があり、損はしていないが儲かっているとはいえない。

○：損さえしていなければ是非続けて欲しい。

○：海外の研修受講者の宿舎はどうしているのか。

△：JICA が用意する場合もあるが、基本的には本学が紹介したホテル等に宿泊している。

△：現状は全てテラーメイドでやっているので大変手間がかかる。いかにして単価の高いレディーメイド研修に変えていくかが今後の課題である。

○：申し込みは直接本学に来るのか。

△：そのとおりである。ベトナムやタイ向けの研修では、受講者が高い確率で幹部行政官になっている。今後は、本学の研修事業と日本の民間企業とマッチさせて、企業から資金を得ることを考えていきたいので、何か良いアイデアがあれば是非教えていただきたい。

○：SPRI プログラムのリクルートはどのように行うのか。

△：JICA の現地事務所とともに、その国の政策課題に応じた分野の研修生を選考している。

○：こういった形の研修を提供している競争相手はいるのか。

△：いない。世界的にも珍しいプログラムである。

### 3. GRIPS International Advisory Committee(IAC)について

白石学長から、アレキサンダー・ダウン氏を迎えて平成27年11月17日(火)に開催されたGRIPS International Advisory Committee(IAC)において、同氏から、本学と民間セクターとの関係を今後開拓していくべきである等の提言を受けたこと、提言に対する今後の対応について学内で検討していきたい旨報告があった。

### 5. その他

特になし。

以上。